

令和 6 年度

外部講師を活用したがん教育等現代的な健康課題理解増進事業 事業成果報告書

【外部講師を活用して実施するがん教育の推進に係る取組】

1 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員(33人)

- 学識経験者・・・大学教授等3人(社会医学、血液・腫瘍内科学、歯科口腔外科学)
- がん関連団体・・・患者支援団体等4人
- 医療関係者・・・医師会1人 歯科医師会1人 薬剤師会1人 看護協会1人
がん相談支援センター1人 検診機関1人 理学療法士会1人
作業療法士会1人 言語聴覚士会1人
- 学校関係者・・・養護教諭代表1人 (山梨県養護教員研究会会長)
保健主事代表1人 (保健主事会会長)
小学校推進校2人 中学校推進校2人 高等学校推進校2人
- 教育委員会・・・市町教育委員会2人 県教育事務所1人 学校保健技師1人
県保健体育課4人
- 県知事部局・・・福祉保健部健康増進課1人

2. 開催時期、検討内容

- 第1回がん連絡会【オンライン】 令和6年7月18日(木)
 - (1) 文部科学省がん教育等外部講師連携支援事業について
 - (2) 山梨県がん教育等外部講師連携支援事業について
 - (3) その他
- 第2回がん教育推進連絡会 令和7年2月6日(木)
 - (1) 事業の取組報告
 - (2) がん教育推進校実践報告
 - (3) 事業の成果と課題について
 - (4) その他

② 教育委員会としての取組

ア がん教育指導者研修会

令和7年1月28日(火)

対 象：教職員、がん教育外部講師、がん教育推進連絡会委員

○講 義

日本女子体育大学体育学部 健康スポーツ学科 教授 助友 裕子 氏
「学校におけるがん教育の実践」

～カリキュラム・マネジメントをふまえた指導のあり方を中心に～

○がん教育推進校実践報告

- ・小学校 【富士吉田市立下吉田第二小学校】
- ・中学校 【甲府市立上条中学校】
- ・高等学校 【山梨県立巨摩高等学校】

イ がん教育外部講師研修会の開催【オンライン】

令和6年7月18日（木）

対 象：がん教育外部講師、がん教育推進校

講 義 ①山梨大学大学院総合研究部附属出生コホート研究センター

特任教授 山縣 然太郎 氏

「がんの基礎知識」「外部講師の心得と児童生徒に学んでほしいこと」

②NPO 法人 がんフォーラム山梨

理事長 若尾 直子 氏

「義務教育としてのがん教育 外部講師の役割」

ウ がん教育推進校における取組

- ・がん教育推進校（小学校1校・中学校1校・高等学校1校）を指定、授業公開及び授業検討会
- ・取組内容の詳細については、「（2）外部講師を活用したがん教育の授業」に記載

エ がん教育に係る外部講師派遣事業（令和6年度 中学校6校・県立学校3校）

- ・対象とする中学校・高等学校に、がん教育推進のための外部講師招聘に係る経費について補助
- ・実施校については「（3）その他」に記載

オ がん教育外部講師一覧表の更新・申請の手続き周知

カ 事業成果の普及

- ・山梨県教育委員会主催のがん教育指導者研修会において、がん教育推進校による実践報告
- ・山梨県がん教育等外部講師連携支援事業報告書を作成し、各学校、関係機関等に配付
- ・がん教育リーフット（本県で作成）を修正・更新
- ・保健体育課ホームページにがん教育に関する情報を掲載

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- ・県がん対策推進協議会に出席し、支援事業における取組、学校の取組等について共有した。
- ・本県で作成しているがん教育リーフレット内の統計データについて、福祉保健部と連携しながら確認・更新した。

（2）外部講師を活用したがん教育の授業

○がん教育授業準備会 令和6年9月12日（木）

授業公開に向け、指導者と外部講師が、授業案検討を行った

○がん教育推進校授業公開

・小学校 【富士吉田市立下吉田第二小学校】

日 時： 令和6年11月1日（金）

対 象： 5年1組

教 科： 特別活動（学級活動）

題材名： がんを正しく知ろう

指導者： 教諭 及川 めぐみ 氏

外部講師： 山梨大学大学院総合研究部医学領域臨床医学系産婦人科学教室

臨床助教 宮下 大 氏



- ・中学校 【甲府市立上条中学校】
日 時 : 令和 6 年 10 月 25 日 (金)
対 象 : 2 年 3 組
教 科 : 保健体育科・保健分野
単元名 : がんと共に生きる、がん患者と共に生きる
指導者 : 教諭 杉原 彩子 氏
外部講師 : 市立甲府病院
がん看護専門看護師 嶋田 やよい 氏



- ・高等学校 【山梨県立巨摩高等学校】
日 時 : 令和 6 年 1 0 月 21 日 (月)
対 象 : 1 年 1 組
教 科 : 保健体育科・科目保健
単元名 : (1) 現代社会と健康 (ウ) 生活習慣病などの予防と回復
指導者 : 教諭 原田 敏秀 氏
外部講師 : 富士吉田市立病院がん相談支援センター
がん看護専門看護師 小池 賀津江 氏



◇外部講師との連携について ～がん教育推進校から～

- ・児童が興味を持って学習することができた
- ・専門的な学習をし、正しい知識を得ることができた
- ・外部講師を活用したことにより、がん患者の実態に触れ、通常の授業では考えが及ばないところまで思いをはせることができた
- ・グループワークを行う際、生徒だけでは考えることが難しい部分を専門的な視点でアドバイスがあったため深い理解につながった

(3) その他

がん教育に係る外部講師派遣事業

(令和 6 年度 中学校 6 校・県立学校 3 校)

対象とする中学校・高等学校に、がん教育推進のための外部講師招聘に係る経費について補助

○中学校

- ・甲府市立東中学校 令和 6 年 11 月 8 日 (金)
- ・甲府市立北中学校 令和 6 年 10 月 4 日 (金)
- ・甲府市立南西中学校 令和 6 年 11 月 11 日 (月)
- ・甲府市立富竹中学校 令和 6 年 10 月 7 日 (月)
- ・甲州市立勝沼中学校 令和 6 年 12 月 10 日 (火)
- ・南アルプス市立芦安中学校 令和 6 年 12 月 6 日 (金)

○県立学校

- ・山梨県立北杜高校 令和 6 年 12 月 13 日 (金)
- ・山梨県立甲府工業高等学校 (定時制) 令和 6 年 12 月 19 日 (木)
- ・山梨県立高等支援学校桃花台学園 令和 7 年 1 月 27 日 (月)

2 事業の達成度について

(1) がん教育推進連絡会の実施

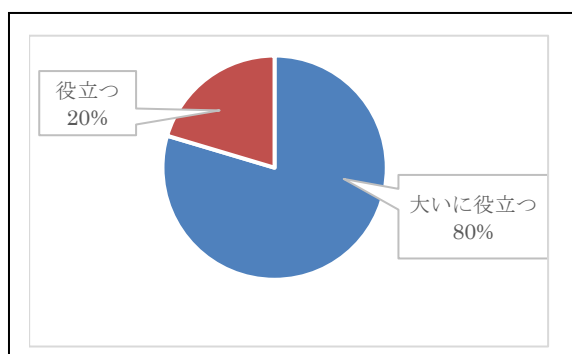
がん教育推進連絡会では、学校におけるがん教育の意見交換や経過の共有が行われた。アンケート結果では、協議会の支援に対し「はい」と答えた割合が 66.7%、「いいえ」が 33.3%だった。「いいえ」の理由には、積極的な関与や専門職としての助言不足が挙げられた。これは、第 1 回がオンラインで開催したため、委員の意見を吸い上げることができなかったと考えられる。委員はそれぞれの専門性を生かし、積極的に関わる意向を示している。協議会の役割としては、事業の周知や多職種の外部講師による支援が重要とされた。

協議会の果たす役割として、がん教育を推進し、実践授業を通じて広げることや、様々な学校での実践が求められた。学校の希望に合う講師を迅速に見つけることや、専門家のアドバイスを授業に反映することも大切との意見もあった。さらに、がん教育の周知や、多職種連携の支援、学習時間の確保、保護者への知識普及も必要といった意見挙げられた。

がん教育の有効性が高く、児童生徒の健康意識向上やがん予防の重要性が強調され、外部講師の活用や正しい知識を持つことの必要性が推進校から意見があった。今後も、がん教育の継続的な推進と改善を行っていきたい。

(2) がん教育指導者研修会の開催

○研修会の内容は、学校におけるがん教育の推進に役立つ内容でしたか



・外部講師を招いてのがん教育は児童生徒にとって必要不可欠なのではないかと思う。しかし、継続的な取り組みをするためには、無理なく教科などの計画に取り入れることが大事になってくるのではないかと。学級担任の先生方の負担にならず、どのように計画実施できるか？助友先生のお話にあったイノベーターになれるよう考え話を広げていきたい。

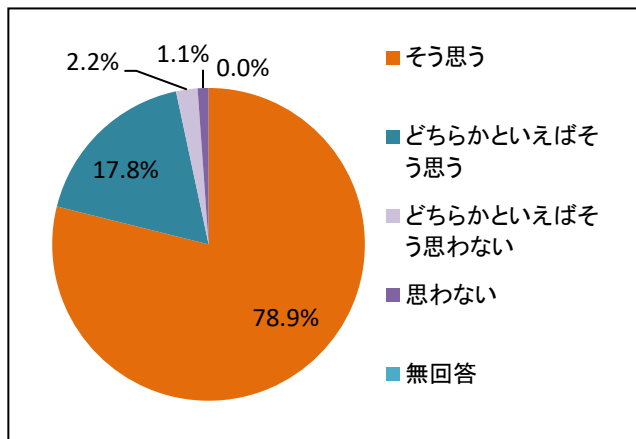
- ・3校の実践報告から、がん教育を推進する意義を感じた。助友先生の講義では様々な資料やデータから日本や山梨のがん教育の実際を知ることができ、がん教育の必要性を感じることができた。また、指導要領を抜粋して話をしていただけだったので、国のねらいの理解も深まった。講師を招聘したり、教科横断的に進めたりすると日程の調整などマネジメントの難しさを感じた。
- ・それぞれの校種の実践を聞くことができ、またがん教育の必要性や、配慮すること、外部講師の活用についても学ぶことができて良かった。

(3) がん教育推進校における取組

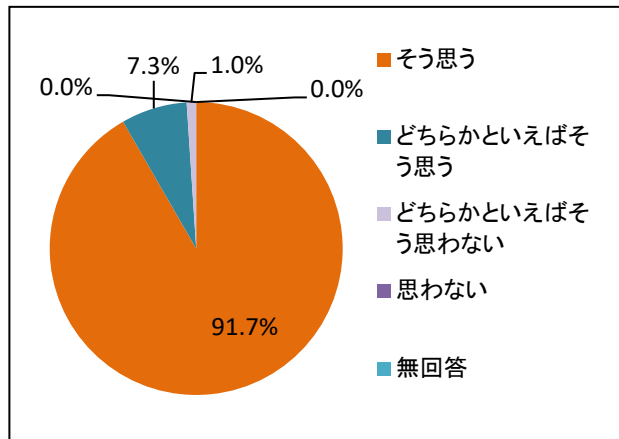
○がん教育推進校（3校）におけるアンケート結果

- ・がんの学習は健康な生活を送るために重要だ

【授業前】

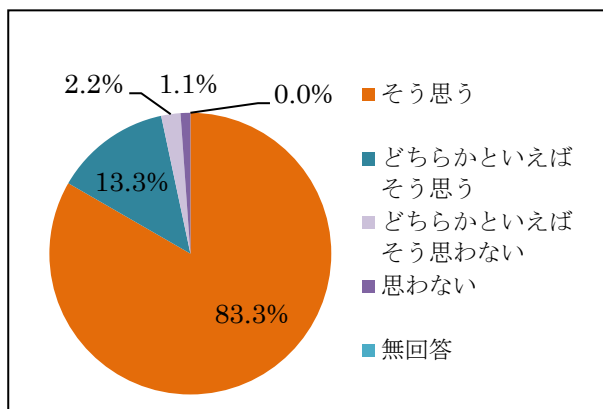


【授業実施後】

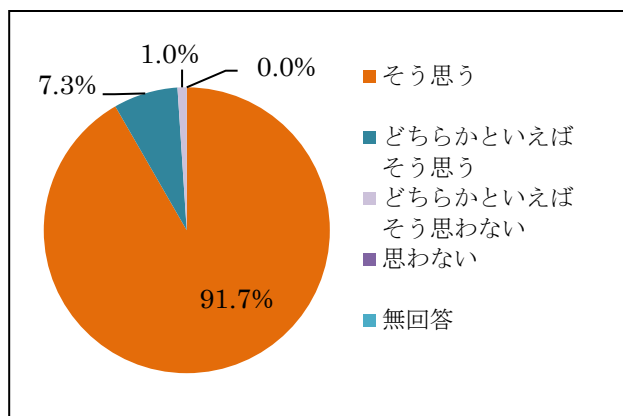


- ・がんの学習は健康な生活を送るために役に立つ

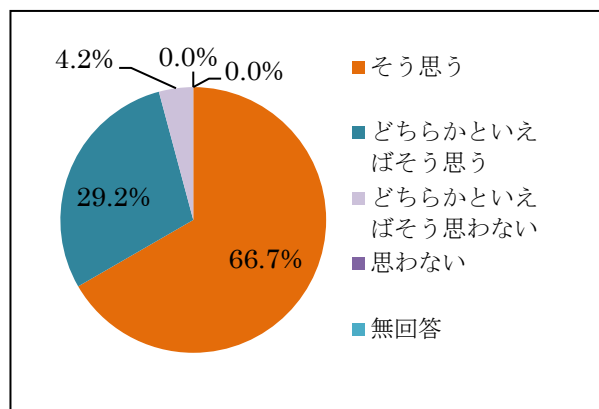
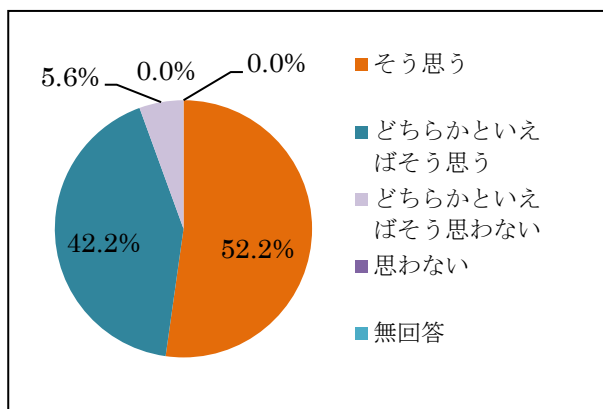
【授業前】



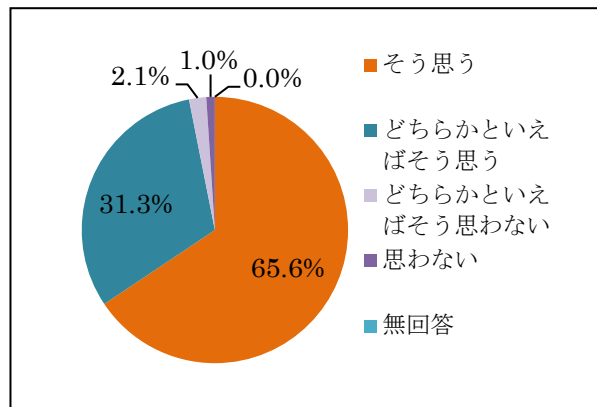
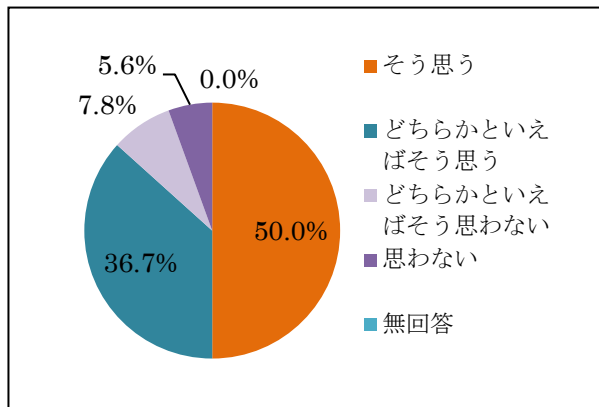
【授業実施後】



- ・がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う



- ・ がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う



学習を行ったことで、がんについて学ぶことに必要性和意義を感じ、主体的な考えを持つようになった。また、自分自身の健康についても、自ら向上する気持ちが芽生え、家族など身近な人の事を思いやるなど、がんとの共生についても考えが変容したことが分かった。

3 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題等）

- ・ 学校教育全体を通じた教科等横断的な視点でのがん教育（カリキュラム・マネジメント）の推進
- ・ 学校保健計画への位置づけを積極的にすすめ、外部講師活用につなげる
- ・ 教員のがんについての知識や理解を深められるような研修や、授業公開の実施及び実践事例の周知の継続
- ・ がん教育指導者研修会の参加者について、養護教諭や保健主事などに偏らず、より広く様々な立場の教諭に参加してもらえるような工夫
- ・ 県が作成している外部講師一覧表や、外部講師の活用方法についての更なる周知
- ・ 外部講師派遣支援事業の周知と、対象校を拡大する
- ・ がん教育に係る外部講師派遣事業の実施校数を増やし、未実施校に積極的に働きかける
- ・ 各校での取り組みや、市町村の取り組みなどを把握し、様々ながん教育の在り方を探る